

令和4年度 川崎市立日本民家園事業計画・評価シート

■評価

つぎの3段階とする。

A: 目標を充分達成し成果を上げている

B: 目標を概ね達成している

C: 目標を達成しておらず改善が必要である

■令和4年度の重点目標

- ・感染症対策をとりながらの事業再開
- ・文化財建造物の安全対策の推進
- ・園内環境の整備・向上
- ・次期指定管理に向けた準備

項目	令和4年度実績	令和3年度実績	令和2年度実績	令和元年度実績
総入園者数	101,125人 (目標達成率 73.3%)	101,664人 (目標達成率 73.7%)	68,267人 (目標達成率 50.2%)	96,237人 (目標達成率 72.9%)
有料入園者数(有料率)	39,962人(39.5%)	47,578人(46.8%)	33,355人(48.8%)	44,174人(45.9%)
外国人入園者数	3,617人(前年比211.2%)	1,713人(前年比107.3%)	1,597人(前年比 23.3%)	6,847人(前年比 95.2%)
総入園料収入	15,848,420円	19,000,880円	13,210,760円	16,887,600円
WEBサイトアクセス数(英語版)	563,409件(25,076件)	626,100件(11,770件)	478,750件(11,261件)	607,819件(41,396件)
来園学校数	149校	135校	76校	132校
伝統工芸館藍染体験参加者数(伝統工芸館事業収入)	1,351人 (4,868,521円)	1,162人 (4,662,743円)	991人 (3,615,572円)	1,956人 (4,126,668円)

令和4年度

1 保存・研究・展示・普及活動

(1) 文化財の保存・調査研究の推進

現状：25件の文化財建造物を移築復原し、長期計画を立てて補修工事を実施している他、日常的な維持管理業務として燻煙と清掃を行っている。総合防災事業は、消火設備・防犯設備の機器更新、耐震補強工事が進行中である。資料の整理・研究活動については、建築分野では大岡實博士文庫の目録刊行が終了し、資料の保管状況の改善、耐震補強工事報告書の刊行を進めている。民俗分野では引き続き暮らしと家をテーマに調査を実施、報告書の刊行を進めている。					
実施目標	中期目標(3年、R6まで)(目標水準)	令和4年度計画(目標水準)	令和4年度実績	今後の課題	評価
1文化財建造物維持管理の推進	屋根修理工事(太田家・作田家・高倉完成まで) 園路排水整備工事(山下家周辺、工藤家 完成まで) 文化財建造物の適切な保存管理の推進(破損箇所随時) 文化財周辺環境の改善(支障木管理等)	高倉・佐々木屋根修理工事(完成まで) 太田家屋根修理工事(完成まで) 作田家屋根修理工事(3年計画初年度) 伊藤家屋根修理設計(完成まで) 山下家周辺園路排水整備工事(完成まで) 工藤家敷地園路排水整備工事(設計まで) 支障木管理(4年目) シロアリ調査(3年目)	高倉・佐々木屋根修理工事(完成) 太田家屋根修理工事(完成) 作田家屋根修理工事(初年度完了) 伊藤家屋根修理設計(完成) 山下家周辺園路排水整備工事(工期延長となるが実施中) 工藤家敷地園路排水整備工事(設計完了) 支障木管理(伊藤家岩澤家周辺中心に実施済) シロアリ調査(3年目実施済)	屋根の劣化状況と耐震補強順位の調整 防火対策の新ガイドライン・指針への対応	A
2総合防災事業・耐震補強工事の推進	耐震設計(井岡家) 耐震工事(太田家・作田家・井岡家) 既存設備(防災・三澤免震)定期点検・補修(各年1回)	太田家耐震工事(完成まで) 作田家耐震工事(3年計画初年度) 井岡家耐震設計(完了まで) 三澤免震装置定期点検(1回) 消防設備点検(2回) 監視カメラ点検(1回)	太田家耐震工事(完成) 作田家耐震工事(初年度完了) 井岡家耐震設計(完了) 三澤免震装置定期点検(完了) 消防設備点検・機器修理(完了) 監視カメラ点検・機器修理(完了)	工事車両のアクセス路の確保 老朽化設備の迅速な交換	A
3 収蔵資料の整理・調査研究の推進と成果の公表	本館地下収蔵庫の燻蒸実施(2年に1回) 民俗資料の整理推進(資料カードと現物のつき合わせ) 耐震工事報告書刊行(山下家・太田家) 「暮らしと家」調査(報告書2年に1冊刊行)	収蔵庫保存環境改善(収蔵庫内、入口周辺の定期的清掃) 伊藤家新収蔵資料の整理(追録刊行まで) 山下耐震工事報告書刊行(完成まで) 「暮らしの家」調査(聞き取り調査実施まで)	大岡資料追加受入(リスト作成) 収蔵庫内、入口周辺清掃(定期実施) 伊藤家新収蔵資料の整理(追録刊行) 山下耐震工事報告書刊行(分割発注検討中のため未刊行) 「暮らしの家」調査(実施できず)	資料保管場所の確保 調査研究活動の継続的实施	C
評定意見	項目1および2については、予定された事業を「予定通り遂行した」という点において「B」評価であろうという意見もあった。しかし、予算が厳しい中で文化財建造物の維持修理における工夫(高倉屋根において古写真をもとに仕様を再現しようとする努力)や、耐震補強において様々な観点での検討を加えている実態、園内整備における実施上の苦労(園内の雰囲気をつぶさずに来園者の利便性を確保しようとするための選択の難しさ、仮設園路確保の苦労と工事の必要性を説明する案内板設置)を踏まえて「A」評価とした。なお、総合防災事業で設置した設備が逐次更新時期に達し始めているという事で、今後は文化財建造物とそれを支える設備の双方が健全であることの必要性をしっかりと説明して予算を確保してほしい。項目3については、コロナ感染が収束しない中で、活動としては「努力している」(大岡資料の迅速な追加受入は予定外の成果であり、伊藤家資料の迅速な受入と展示への還元なども高く評価できる)という意見が多かったが、「研究活動、成果報告が十分でなかった」という点について日本民家園側の反省意識が高いため、今後のさらなる努力を期待して「C」評価とした。				

(2) 展示の充実

現状：文化財建造物を野外展示し、それを補うため本館に展示室を設置している。各古民家では地域の民具や年中行事の展示を行っている他、囲炉裏での火焚きや生活用具の製作風景、さらには屋根の葺替えや耐震補強等の工事も展示の一環としてとらえ、作業風景を見せる工夫をしている。本館常設展示室では導入として日本の民家建築の基本を展示し、企画展示室では民俗や建築をテーマに年2回企画展を開催している。また、敷地内も展示として整備を進め、石造物を配置している他、民家の旧所在地に合わせた植栽や、景観にふさわしい案内板の設置を行っている。こうした展示には解説に英文を併記している他、12カ国語パンフレットや4カ国語音声ガイド(日英中韓)を導入し、外国人対応にも力を入れている。

実施目標	中期目標(3年、R6まで)(目標水準)	令和4年度計画(目標水準)	令和4年度実績	今後の課題	評価
1常設展示及び関連事業の充実	音声ガイドサービスの継続 園内展示整備(継続的美化、パネルのビジュアル化) 古民家解説の充実(古民家めぐり年24回、子供向けの定例化) 大規模工事ごとに見学会開催・解説パネル設置 生田緑地植生管理計画に合わせた古民家周囲の植込みや畑の整備 車椅子でアクセスできない古民家内部の動画による視聴サービス	QRコードによるWEB版音声ガイドサービス(開始まで) 音声ガイドアプリをインストールしたタブレット端末の団体貸出サービス(開始まで) 車椅子でアクセスできない古民家内部の動画による視聴サービス(水車小屋、岩澤家、船越の舞台) 民家解説実施(24回) 子供向け民家解説実施(1回) 工事解説パネル設置(太田、作田、高倉) 園内の展示点検、改善(継続) 展示・ワークショップに使用する植物種整備(ニワトコ・タデ藍 継続) 展示環境維持のための除草(継続)	WEB版音声ガイド(サービス開始、各棟解説板にQRコード取付) 音声ガイドアプリ用タブレット端末(団体向けに貸出開始) 車椅子でアクセスできない古民家内部の動画による視聴サービス(実施できず) 民家解説(23回) 子供向け民家解説(実施できず) 工事解説パネル(太田、作田、高倉、佐々木) 園内の展示点検、改善(実施) 展示・ワークショップに使用する植物種(ニワトコ・タデ藍)栽培 展示環境整備(除草実施) 常設展示室に左官道具、地形道具展示	展示の一環としての植栽整備 年中行事展示の調査に基づいた見直し	B
2企画展示及び関連事業の充実	民家博物館としての特性を活かした企画展示開催(年2本) 一般の人が手に取りやすい解説図録の刊行(年2冊) それに伴う展示解説(会期中月1回)やワークショップの開催(年2本)	新企画展2本開催(前期は目録の追録刊行、後期は図録刊行まで) 一般向け企画展示解説(10回) 企画展におけるパネル類・配布物の日英併記(各企画展)	企画展「倉の中の道具たち」「東北の手仕事Ⅰ わら」開催(目録追録、図録刊行) 企画展示解説(一般向け10回、子供向け1回) 各企画展で英文対応(英訳シート配置)	企画展示の英語対応 企画展終了後の資料整理の迅速化	A
評定意見	日本民家園では、文化財建造物の展示のみならず、古民家とその地域に伝わる民具や年中行事の展示などから、来園者がその土地土地での「人々の暮らし」を実感し、よりよく理解できるよう工夫されている。また、建造物の維持に欠かせない屋根替えや周辺環境の整備などの作業・工事についても展示して見せることで、当園の活動への理解を促す努力がなされており高く評価できる。しかし、子ども向け民家解説が実施されなかったなどの反省点も残った。 アクセシビリティの向上については、デジタル化への取り組みとあわせて意欲的になされている。車イスユーザーなどがアクセスし難い場所や展示の情報を、デジタル(動画配信)によって提供することも検討されているとのこと。これも実施までには至らなかったようだが、多言語化へのチャットGPTの活用などユニークな試みもなされており、今後に期待したい。多様な来園者が民家園をより利用しやすくするために、できるところから着手していったほしい。				

(3) 教育普及活動の充実

現状： 教育普及活動として体験講座・ワークショップ等を実施、特に子どもや親子向けの行事、当日自由参加型の行事に力を入れている。また施設の特長を活かし、古民家の旧所在地と連携した事業として各地の芸能公演や物産展などを行っている。この他、学校との連携を進め、小学生の学習プログラムや中学生の職業体験の受け入れを行っている。また、民家園の運営を支える炉端の会（ボランティア）・民具製作技術保存会（市民活動団体）と協力者会議を開催し、事業運営の改善を進めている。さらに、指定管理者は伝統工芸館や古民家カフェの運営を行っている他、さまざまな自主事業を行っている。

実施目標	中期目標(3年、R6まで)(目標水準)	令和4年度計画(目標水準)	令和4年度実績	今後の課題	評価
1 各種事業(講座・ワークショップ・催事)の充実	自由参加型・体験型事業の充実 生田緑地他館等との連携事業の充実(年2回) 旧所在地交流事業の実施(年1回以上) 伝統芸能公演の実施(年1回) 市民団体との連携による昔話公演(年25回)	体験講座の実施(竹細工、わら細工、機織り) 当日参加型体験事業(昔遊び、七夕他) 科学館との連携事業実施(七夕、月見) 旧所在地交流事業の実施(1回以上) 感染防止に配慮した伝統芸能公演の開催(1回) 昔話公演(25回)	体験講座(竹細工、わら細工、機織り計8回) 当日参加型体験事業(昔遊び、七夕等計6回) 科学館連携事業(七夕、月見) 旧所在地交流事業(南砺市、1回) 伝統芸能公演(人形浄瑠璃、1回) 昔話公演(23回)	各種行事の選択と集中 旧所在地交流事業の効果的実施方法検討	A
2 学校連携の充実	学校団体の体験・見学受入(年間150校) 学習教材の継続的な見直し 職業体験・総合学習等のプログラム受入 学校郷土資料室等整備支援(2校、メンテナンスの実施)	感染症流行下での小学校向け体験プログラム・見学の受入(140校) 中学校の職場体験受入 博物館実習、実測実習等大学の利用受入 多摩区大学連携プログラムの受入(1校) 学校郷土資料室等整備支援(2校)	小学校体験・見学受入(感染対策のため体験プログラムを見直して実施、計112校) 中学校の職場体験受入(2校) 博物館実習、実測実習等大学受入(計7校) 多摩区大学連携プログラム協力(2校) 学校郷土資料室等整備(2校支援)	学校側ニーズの適切な把握 児童数の多い学校の効果的受け入れ方法の検討 GIGA端末の有効活用	A
3 市民活動団体との連携	炉端の会、民技会との連携の強化 両者との協力者会議による運営改善(年1回) 生田緑地マネジメント会議・自然環境管理保全会議との連携(年7回会議出席)	協力者会議開催(1回) 炉端の会入門講座開催方法見直し 民技会新人研修(1回) 生田緑地マネジメント会議・自然環境管理保全会議への出席・意見聴取(7回)	協力者会議(開催できず) 炉端の会入門講座(入会機会を年1回から4回に見直し) 炉端の会メール登録実施 民技会新人研修(実施) 生田緑地マネジメント会議・自然環境管理保全会議への出席・情報提供(5回)	情報周知のためのメール活用(炉端の会) 参加者の多様化に対応した活動方法の検討(炉端の会)	B

4伝統工芸館・自主事業の充実	本藍の継続的使用のためスタッフの技術向上(研修継続) 藍染めの魅力の情報発信 自主事業の充実(年5回以上) 古民家カフェの運営(継続) 指定管理者変更になった場合の円滑な移行 コロナ終息後、外国人向け藍染めプログラムの再開	染織技術の研修受講(1回) 絞り染め、型染め講座開催(5回) 出張ワークショップ(2回) ミニ展示開催(5回) 展示品の販売(Tシャツ他) 草木染めと藍染めの新商品の開発(5点) プロジェクションマッピング(約1か月) 自主事業イベント開催(ベーゴマ大会他) 古民家カフェ(継続)	染織技術の研修(1回受講) 絞り染め、型染め講座(5回) 出張ワークショップ(実施せず) ミニ展示(12回) 展示品の販売(Tシャツ他) 草木染めと藍染めの新商品の開発(27点) プロジェクションマッピング(事業者の都合により中止) 自主事業イベント開催(ベーゴマ大会、水引ワークショップ他計31回) 古民家カフェ(計40日)	伝統工芸館の予約フォームの刷新	B
評定意見	教育普及活動では、体験講座・ワークショップなど子どもやファミリー向けの行事に力点を置いて実施し、さらに青少年科学館や民家の旧所在地である南砺市との連携事業、伝統芸能公演、昔話公演など、多彩なプログラムを展開している。非常に充実した内容となっているが、さらなる充実を図るためには各事業の見直しや新たなプログラムの開発も必要であろう。すでに、民家園では学校教育との連携プログラムにおいて、小学生の持つGIGA端末の活用を検討しているとのこと。小学校のみならず、中高大学との連携も視野に入れていかれると良い。例えば、保存されている木造模型などを再活用し、大学と連携して子ども向け講座に展開させるなどのプログラムも考えられよう。今後は、来園者のニーズを分析し、職員の負担とのバランスも考慮したうえで、民家園ならではの教育普及プログラムを構築していかれることを期待する。一方、民家園にとって重要な位置付けである協力者会議がコロナ禍と職員体制を理由に開催できなかったのは残念であった。しかしながら、炉端の会が会員募集を年4回に上げたところ新規会員の応募が増えたとのこと。民家園の活動を支えるボランティアグループの強化につながることを期待したい。				

2 運営・管理活動

(1) 博物館経営の強化

現状：平成25年度より指定管理者制度を導入し(5年毎に更新)、学芸業務と全体の統括業務は川崎市が、管理運営業務と広報業務を指定管理者が担っている。市の職員、指定管理者の職員、いずれも資質向上のため各種研修に積極的に参加し、来園者の満足度向上を目標にリピーター確保のための工夫を重ねている。					
実施目標	中期目標(3年、R6まで)(目標水準)	令和4年度計画(目標水準)	令和4年度実績	今後の課題	評価
1運営体制の整備・研修の充実	民家園運営基本方針の策定(完了まで) 研修機会の確保(市職員年1回以上) 事業評価の実施と活用(毎年実施・公表) 次期指定管理への円滑な移行(現指定管理は令和4年度まで) 民家園ルールブックの整備(継続)	運営基本方針の策定推進(ソフト面の計画作成、文化財保存活用地域計画との調整) 庁内外の研修への参加(市職員1回以上) 新規採用者の園内研修実施(随時) 事業評価の実施と活用(実施と公表) 次期指定管理者の選定と円滑な移行に向けた準備(契約手続き、移行準備完了まで) 様々な対応を明文化した民家園ルールブックの整備(継続)	運営基本方針(計画の素案、概要作成)庁内外の研修(市職員1回以上参加) 新規採用者の研修(5回) 事業評価(R4実施、R3公表済) 次期指定管理(選定完了、手続き進行中) 民家園ルールブック(逐次追加)	運営基本方針の策定完了(R5) 窓口対応事例の蓄積と共有化	B
2広報の強化	公式サイトの充実 Twitter・YouTubeを活用した広報 生田緑地他施設・他局・観光協会・地元商店会・神奈川県等と連携した広報 指定管理者構成企業のルート等を活用した広報の充実 指定管理者変更になった場合の公式サイトの円滑な移行 コロナ終息後の訪日外国人に向けた広報	YouTubeに民家園関連民俗映像記録を掲載(10本) 生田緑地お出かけチケットの販売に伴うまちづくり局や鉄道会社と連携した広報 大型行事(プロジェクションマッピング)に向けた経済労働局や企画会社と連携した広報	市民ミュージアム制作映像記録の掲載を予定(市民文化局に申請中) 生田緑地お出かけチケットに伴う広報(完了) プロジェクションマッピングに向けた広報(企画会社側の都合により事業中止) 入園料の改定に伴う公式サイトの改修、リーフレット・入園券・年間パスポートの修正及び作成 伝統工芸館の藍染についてのランディングページの作成	動画制作のスキル向上 外国人向け広報の効果的な方法確立	B
評価意見	入園者数とそれに伴う定量的な実績は、目標値に達しなかった項目があるが、本項に関わる民家園としての業務は、概ね計画通り達成できたものと評価する。年度末近くからアフターコロナの局面への移行がみえてきたこともあり、外国人入園者や、英語版WEBサイトのアクセス数の伸び等、好ましい傾向も表れている。今後の実績につながるよう、経営の強化にさらに努めてほしい。 今年度策定作業を進めた日本民家園運営基本方針は、今後の民家園の在り方や、文化財建造物の保存と活用、諸々の博物館活動、運営・管理等の経営面に、大きく影響を及ぼすものといえるため、より良いものを作り上げるように検討を進めてほしい。他の項目で今年度の事業が計画通り達成できなかった事項は、人員の不足等、職員体制に起因する部分があるようにうかがわれる。これから新たに博物館一般に求められてくる事項を含め、民家園の事業を持続的・安定的に実施していくために、研修等による職員全般の資質向上に加え、それに適した規模の体制の構築が強く望まれる。 なお、今後博物館法の一部を改正する法律の施行に伴い5年以内に博物館の再登録を行う必要が生じることから、計画的に申請手続きの準備を進めるようにしてほしい。				

(2) 利用者の利便性・安全性の向上

現状： 来園者サービス施設として救護室や授乳スペース等を整備、ベンチやテーブル等のリニューアルも進めている。また、バリアフリー化として古民家の敷居にスロープを用意、園路についても手すりの設置や土舗装化など対応を進めている。この他、来園者へのサービス向上のため、ショップの充実と窓口業務の改善に努めている。危機管理については各種防災訓練を実施、危機管理マニュアルを随時更新している。					
実施目標	中期目標(3年、R6まで)(目標水準)	令和4年度計画(目標水準)	令和4年度実績	今後の課題	評価
1来園者サービスの向上	休憩スペースの充実とメンテナンス 民家園の特色を活かした継続的な商品開発(毎年2点) 指定管理者変更になった場合のショップの円滑な移行 さまざまな来園者に配慮したハード面、ソフト面での環境の整備(バリアフリー、外国人対応)	露天ベンチの改修(腐朽したもの) 民家園の特色を活かした新商品・カプセルトイの開発(5点) バリアフリーのソフト面での対策として車椅子でアクセスできない箇所の動画配信(水車小屋、岩澤家、船越の舞台) 園路の整備(佐々木家からトンネルまで)	ベンチの改修(実施できず) 新商品・カプセルトイ(2点開発) 車椅子でアクセスできない箇所の動画配信(実施できず) 佐々木家からトンネルまでの園路整備(工期延長となるが実施中) 工事迂回路整備(山下家軒下ベビーカー対応)	ベンチ・休憩所の増設、適切な配置 キャッシュレス対応の強化	C
2危機管理体制の整備	園路危険箇所の定期的な点検 危機管理マニュアルの継続的更新 消防署との連携による防災訓練の実施(年4回) 電気系統の定期的な点検 新人警備員の研修充実 来園者の避難経路の再確認	園路危険箇所の点検・対応(逐次) 感染症対策の徹底継続と感染症対策を含めた危機管理マニュアルの増補(逐次) 防災訓練実施(年4回) 古民家の漏電対策として継続的な点検の実施(各棟1回)	危険箇所の点検・対応(逐次実施) 新型コロナ対策マニュアル見直し(3月13日からの見直しに対応) 防災訓練実施(4回完了) 古民家の配線の劣化点検、コンセント キャップの装着(各棟完了) 監視カメラ支障木・枝の伐採	防犯・放火対策として外周柵の強化 コロナ対策の記録作成	A
評定意見	来園者の便益施設・設備の整備や、バリアフリー対策が計画通り進められなかったのは、大変残念である。来園者が安全に安心して民家園を利用できるように、達成できなかった原因を分析して、今後改善を図るようにしてほしい。大規模工事に伴い一部施設が使用できなくなる場合は、仮施設で代替する等、来園者に不便がないようにすることが望まれる。古民家の小破箇所等の情報は、こまめな点検やボランティアスタッフからの情報吸い上げ等で速やかに把握し、人や文化財への被害を未然に防ぐため、必要な手続きを踏み、適時適切に修繕を進めてほしい。危機管理に関して、消防と連携して定期的に訓練を実施している点等は評価できる。ただし茅葺屋根の建物火災等は、現在は消防でも滅多に経験しないため、文化財火災の事例や全国の消防の取り組み等の情報を収集し、植物性屋根の建物火災の消火ノウハウ等を消防と民家園で共有し、火災対策や訓練に活かすことが望まれる。建築系野外博物館では、火災に加え、大規模地震や風水害対策も重視すべきである。文化財建造物と、来園者・スタッフへの被害を防ぐ対策に、引き続き取り組んでいただきたい。				